

4 地球環境関係データ

■概要

(1) 地球温暖化

府における1999（平成11）年度の温室効果ガス排出量は5,823万CO₂換算トンで、基準年度（1990（平成2）年度、ただし、代替フロン類については1995（平成7）年度）の排出量に比べ0.9%の増加となっています。

また、温室効果ガスの約90%を占める二酸化炭素の1999（平成11）年度の排出量は、全国で12億2,500万CO₂換算トンであり、そのうち府内における排出量は約4.2%にあたる約5,116万CO₂換算トンとなっています。

なお、府における平成14年度の事務・事業に係る温室効果ガス排出量は381,772.9CO₂換算トンで、平成13年度に比べ3%の増加となっています。

(2) エネルギー利用

府内におけるエネルギー消費量（一次エネルギー、ジュール換算）について、1990（平成2）年度からの推移をみると、全体では1990（平成2）年度から1996（平成8）年度まで徐々に増加していましたが、その後、1997（平成9）年度に一旦減少した後は概ね横ばいの傾向にあり、2001（平成13）年度は11,660億ジュールとなっています。

府では、新エネルギーの導入促進や省エネルギーの徹底など望ましいエネルギー利用の将来像と、その実現に向けた方策を示す「エコエネルギー都市・大阪計画」（平成12年3月策定）に基づき、環境負荷の少ない太陽光発電など新エネルギーの導入を促進しています。

(3) ヒートアイランド現象

府では、土地利用等による気温の実態調査や居住者へのアンケート調査によって今後の対策を検討するほか、屋上緑化や車道部における透水性舗装の試験施工を実施し、課題や効果等の検証を行っています。

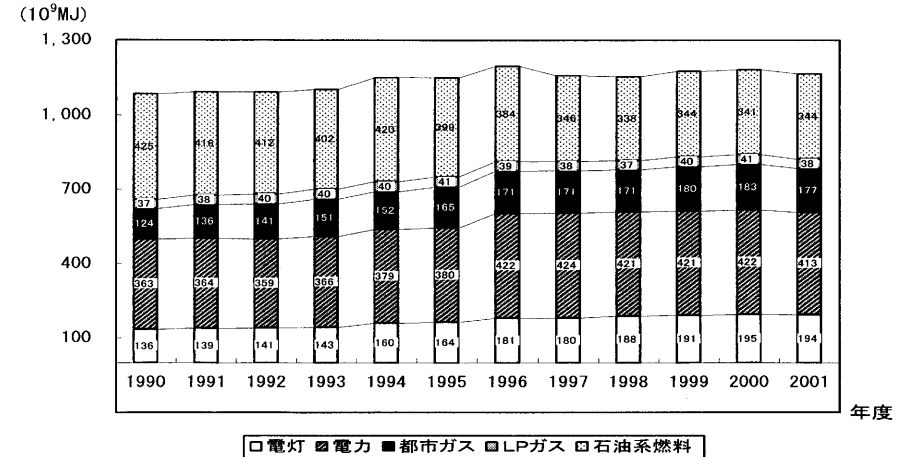
(4) 酸性雨

酸性雨（酸性沈着）には、湿性及び乾性沈着の両過程により、土壌、湖沼などの生態系に影響を及ぼします。湿性沈着量は降水量によっても左右されますが、ほぼ欧米と同レベルで推移しており今後とも注意して観測する必要があります。

■地球温暖化関係データ

4-1 エネルギー消費量の推移

府内におけるエネルギー消費量（一次エネルギー、ジュール換算）について、1990年度からの推移を見ると、全体では1990年度の10,850億ジュールから1996年度の11,960億ジュールまで徐々に増加していましたが、1997年度に一端減少した後は概ね横ばいの傾向にあり、2001年度は11,660億ジュールとなっています。その結果、2001年度は1990年度から7.5%の増加となっております。燃料の種類別では、電灯、都市ガスの伸びが特に大きく、対1990年度比、各々42%、44%の増加となっており、電力についても14%の増加となっています。逆に、石油系燃料は、製造部門における燃料転換等により減少傾向であり、1990年度から19%の減少となっています。



（注）各燃料のエネルギー消費量は「大阪府統計年鑑」による消費量等に燃料毎の熱量を乗じて求めています。
 1 石油燃料及びLPガスは販売量で、石油系燃料は揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、ジェット燃料の合計量です。
 2 電力・電灯については発電効率、送配電ロスを加味して、2,450kcal/kWhで換算した後、ジュールに換算したものです。

4-2 府内の新エネルギーの導入実績

種類	府内の導入実績
太陽光発電*	17,500 kW (4,809 台)
風力発電	2 kW (6 台)
クリーンエネルギー自動車	8,342 台
廃棄物発電**	143,960 kW (21 施設、19 工場)
廃棄物熱利用**	熱供給 15 施設(12 工場)、自家利用 49 施設 (34 工場)
温度差エネルギー	7 か所 (河川水 2、海水 1、下水処理 4)
天然ガスコージェネレーション	47 万 kW
燃料電池	4,424 kW

* 太陽光発電には、平成14年度(財)新エネルギー財団への申し込み分を含む。

**は、平成13年度末現在。